

協働通心

令和8年度
第1号

『協働通心』は、地域協働合校(小・中学校や地域で、社会の変化に対応するために、こどもと大人が世代を超えて知恵を出し合い、学び合い、協力して共に活動する取組)の活動状況を、広く市民の皆さんにお知らせする情報紙です。今回は、渋川小学校と遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議の取組についてお知らせします！

渋川小学校「守ろう！滋賀の味」

渋川小学校では、湖魚を使った滋賀の郷土料理について学びました。

アユの佃煮とセタジミのみそ汁を作っているところを見学し、「いいにおい！」「貝が開いてきた！」と興味津々。料理には「おいしい」とお代わりに並び、琵琶湖の恵みを五感で楽しみました。

また、漁師さんからは漁業の現状や琵琶湖の環境課題についてお話を聞いたり質問をしたりしました。今後も湖魚をいただくためにどのような琵琶湖の未来が望ましいのかを考える、貴重な学習の時間となりました。



いいにおい！



漁で使う道具も
見せてもらったび！



遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議 「ロボットサッカー×プログラミング体験」



思った通りに
動いた！



負けなび！

玉川まちづくりセンターにて、立命館守山中学校・高等学校サイテック部によるロボットサッカー×プログラミング体験が行われました。

参加したこどもたちは、与えられたミッションをクリアするため、学生と一緒にロボットのプログラミングに挑戦しました。思い通りに動いたときには「やったー！」と歓声が上がり、自分たちでプログラミングしたロボット同士によるサッカーの試合も大いに盛り上がりました。こどもたちはもちろん、見守っていた大人たちも、普段なかなか体験できないロボットサッカーの魅力に引き込まれていました。

